

学校関係者評価委員会の提言を受けて

日頃より本校の教育活動へのご理解、ご協力をいただき感謝申し上げます。さて、この度は学校関係者評価アンケートへのご協力ありがとうございました。集計結果と本校職員の自己評価を学校関係者評価委員の皆様へに審議していただき、稲田学校関係者評価委員長より「学校関係者評価委員会の提言」をいただきました。この貴重な提言を令和4年度の教育活動に反映させてまいりたいと考えます。今度とも本校の教育活動にご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

〈令和4年度の教育活動充実に向けた対策〉

【はじめに】

保護者アンケートは、96.6%という高い回収率でした。保護者の皆様方の学校教育に対する関心と期待の大きさに気持ちの引き締まる思いです。学校と家庭、地域が一体となり、その役割を意識して児童の教育にあたることが重要です。今度とも学校教育に関心をもち、ご協力ください。

1 教育目標 よく考える子〈知育〉ものごとをよく考え、向上しようとする子ども について

教材や展開を工夫し、引き続き、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、考えることや課題解決を大切にしたい授業改善をすすめていきます。ご家庭においては、学校での授業の様子を話題にする、家庭学習の定着を図るなどの連携をお願いします。次年度の校内研究を引き続き算数科にし、児童の思考力、判断力、表現力を育むとともに、主体的に学ぶ態度の育成を図っていきます。

今年度も新型コロナウイルス感染症拡大予防措置としての分散登校やオンライン学習等により、児童の発言や話し合いの場の設定が多く取れない中ではありましたが、学級では、発言の仕方の徹底、ハンドサインや相互指名等の発言方法や発表形態の工夫を行ってきました。自分の考えや意見を伝え、友達の考えを聞いて学びを深める授業を今後も目指していきます。

授業の中で効果的なタブレットの活用を目指し、教員研修を進めました。ロイロノートでの意見交流や資料提示等で効果的な活用が進みました。

2月には、区教委よりキュビナ活用推進校の認定を受けました。モラル教育の徹底、視力低下防止等、家庭との連携を強化しながら指導してまいります。

*ロイロノート…タブレットを通して一人一人の考えを表現し、伝え合うことができるアプリです。

*キュビナ…一人一人のペースや実態に合わせて学習できるドリル学習のアプリです。

2 【重点】 教育目標「豊かな心をもった子」〈徳育〉思いやりのある優しい子ども について

生活のルールについては、「花の子スタンダード」等による、全校で統一した指導の徹底を図りました。生活指導においては、特に、全教職員による共通理解、共通実践が基盤と捉えています。ただ単にルールを守らせることに主眼を置くのではなく、自分で考え判断し、行動できるようになるための基本として、「ルールは何のためにあるのか」を考えさせながら指導を重ねてきました。アンケート結果から児童も教員の指導の意図を理解していると言えます。行動につながられるよう引き続き、繰り返し指導していきます。

あいさつは、人間関係構築の上での基本であり、基礎はご家庭での教育にあると捉えています。学校は、その実践の場です。「あいさつ名人」や「あいさつ宣言」の取組は、児童の意欲喚起につながっています。「語先後礼」ができる児童も大勢います。さらに、今年度は、「幻のあいさつ名人」に認定される児童が出そうです。次年度もこれらの取組は継続し、様々な機会を捉えて、場や相手に応じた気持ちのよいあいさつが身に付けられるよう工夫してまいります。

3 教育目標 健康な子〈体育〉体を丈夫にし、明るい心をもつ子ども について

コロナ禍の影響は否めず、児童の体力の低下を心配しています。体力テストにおいては、低学年ではソフトボール投げ、高学年では20メートルシャトルラン（持久力）において、課題が見られました。学校では、通常、休み時間の外遊びを奨励していますが、密を避けるため今年度も校庭は2学年ずつ、体育館は学年利用としました。また、できるだけ校庭で遊べるよう、学年で昼休みと清掃時間をずらしたり、早く登校した3年以上児童については8時から朝遊びを許可したりしています。集団遊びでは、体力を保持するだけでなく、ルールを工夫したり、問題を解決したりする経験を通して、良好な人間関係を構築していくすべを学んでいっています。通常の学校公開では、当然、休み時間も公開していますので、授業時とは異なるお子さんの様子をぜひご覧ください。

放課後の遊び方については、数件、相応しくない状況が報告され、教員が公園や集合住宅等に指導に向かうことがありました。校外での過ごし方の指導やその都度様子を見に行くことはしましたが、教職員が定期的に見回することは難しいです。PTA 校外委員会、保護者、地域の方々のご協力をお願いしたいと思います。「早寝、早起き、朝ごはん」については、家庭への啓発を図ります。遅刻者の減少は喫緊の課題です。次年度は、3年生以上でのモジュール学習を計画していますので、さらなる意識の向上を呼び掛けます。

4 学校行事について

3密を回避する方法を検討しつつ、実施しました。制限のある中でしたが、児童の「学校行事は楽しい」「達成感がある」の項目に対する肯定的評価が高く、安心しました。運動会は、学年ごと1単位時間内で密にならない競技（徒競走・表現）を行いました。開閉会式の有無、方法についても、各学年で検討し、工夫して、1時間の内容を計画、実施しました。花の子学習発表会も、各学年1単位時間を割り振り、日頃の学習の成果を発表しました。体育館では、学級ごと入れ替えながら発表しました。子どもたち一人ひとりの活躍の場となりました。次年度も、日常の学習の発表の機会として位置付けます。今年度の花の子作品展は、図工、家庭科作品を展示し、書初めについては、書初め展として独立させました。参観は、感染予防対策のため、児童の下校後とさせていただきます。余裕をもって参観できたと好評でした。

宿泊学習は、時期を変更することにはなりましたが、6年生は10月に2泊3日で日光に、5年生は1、2月に2班に分かれて1泊2日で川場に行くことができました。各学年の校外学習も実施時期や見学場所が変更になる学年がありましたが、実施できました。学校行事は、体験的な活動を通して、集団への所属感や連帯感を深めたり、達成感を味わったりすることができ、学校生活においても大きな意義をもちます。今後も計画的に準備を進め、実施していきます。

5 キャリア教育について

キャリア教育では、様々な体験活動や地域の方とのふれあいや交流を通して、社会とのつながりを意識できるような活動を行います。そして、これらの活動を振り返る中で自分のよさに気づき、自己肯定感や自尊感情を育み、自分の生き方や将来に夢がもてる教育を展開していきます。

今年度は、どの活動がキャリア教育なのか、また、各学年のつながりが不明瞭な部分がありました。そこで、各学年の年間指導計画に、キャリア教育を系統的、段階的に位置付け、さらに地域や外部の方、学び舎の子どもたちとの連携も積極的に取り入れるようにいたします。

昨年度から始めたキャリアパスポートをさらに活用して、行事や総合的な学習の時間、学級活動等において、子ども自ら目標や課題を設定し、取り組んだことを振り返ったこと等の記録を積み重ね、自身の変容や成長を年間通じて自己評価できるようにしていきます。その自己評価に教員が対話的に関わることで、個性を伸ばす指導へとつなげ、自己有用感をもたせるようにしていきます。また、保護者の方にも本パスポートを通じて情報を共有し、お子さんの成長を見取り、称賛し、励ましていただけますようよろしくお願い申し上げます。

6 教職員について

「ていねいに指導している」「相談しやすい」の項目は、児童、保護者ともに高評価でした。担任だけでなく、

専科や養護教諭、講師や支援員、スクールカウンセラーや主事など、相談できる大人を増やせるよう、今後もさらに児童理解を深め、研鑽を積み、一人ひとりを大切にしたい教育活動を教職員一丸となって進めてまいります。

7 さくらの学び舎について

学び舎の児童生徒交流は、6年生を中心に、部活動体験や陸上授業体験等を行いました。学び舎給食献立交流等、実施内容と学び舎連携が合致されていなかった点の改善を図るとともに、交流活動を広げてまいります。教員研修としては、中学校での授業公開、及び協議会を実施しました。また、教員による桜丘幼稚園参観を実施しました。次年度は、あいさつ運動での児童生徒交流、教員の出張授業等の拡大実施を目指します。

8 情報提供について

学校だより、学年だより、学級だより等の通信やホームページで学校からの情報提供に努めました。Zoomによる配信も進みました。また、学校保健委員会等は紙面にての報告とするなど、発信する方法を工夫しました。2月よりペーパーレスを進めていますが、次年度も様々な方法で、積極的に情報提供していきたいと思っております。

9 学校運営について

学校経営方針については、4月の保護者全体会で説明しました。また、児童に伝わるような言葉をキャッチフレーズとして、「見つけよう大好き 育てよう大好き」とし、自己肯定感の醸成を掲げています。各学期には「鍛える」「表す」「伸びる」を合言葉に進めています。重点目標の明確化と目標の振り返りについては、さらなる工夫と発信に努めてまいります。

10 地域との連携について

地域に根差した学校を目指す上で、地域との連携は重要だと捉えていますが、今年度は、対面での交流活動はできませんでした。しかし、地域の方をゲストティーチャーにお呼びする学習活動は、様々な学年で実施でき、有意義でした。豊富な地域人材を活用することは、教育環境の深まり、広がりに通じます。今後は、人材バンクを作成し、地域との交流、連携を深めてまいります。ぜひとも、ご協力をお願いします。

学校運営委員会は、コロナ感染対策で3回の開催となってしまいましたが、有意義な会となりました。記録は紙面にて発信しました。学校支援コーディネーター等の活動内容についても広く周知してまいります。今年度は、お玉が池や学級園の環境整備計画が進みました。次年度は、実施に向けお力をお借りする予定です。

11 安全面について

「自分の身は自分で守る」ことが安全教育の目標とするところです。災害安全については、特に、地震の際の安全行動の徹底を図りました。緊急地震速報を鳴らし、『落ちてこない、倒れてこない、移動してこない』場所でダンゴムシの姿勢など、具体的な指示をしました。教職員も様々な場面で自ら判断できるよう、避難訓練の内容を見直したり、校内研修をしたりしました。また、学校独自に防災・防犯、有事の際等の行動について示した「安全対策マニュアル」の冊子を作成し、家庭や地域へ配布し、周知しています。

安全教育は、行動が伴ってこそその学習です。下校時に、友達と追いかけてこをしたり、道いっばいに広がって歩いていたなど、はらはらする場面に出遭うこともあるので、引き続き、危険を予測し回避する力を育てるよう安全学習に努めます。今年度は、6年生を対象に行った自転車シミュレーターで、加害者にもなり得る自転車運転の事例を含めた学習をしました。2年生は、歩行者シミュレーターで道路を横断する際の危険を体験しました。交通ルールの徹底については、ご家庭でも繰り返しお話しください。また、大人が範を示すことが大切ですので、共に努めましょう。

今年度から、通学路の通行止め表示を地域の方が出してくださっています。また、交通安全週間には、町会の方が横断見守りをしてくださっています。PTA 地域班による安全当番等、皆で子どもを守る体制がさらに広がることを願っています。